

養育里親

～もうひとつの家族～

1

坂口 伊都

養育里親って？

皆さんは、「養育里親」をご存じでしょうか？里親は聞いたことあるけど、養育里親は知らないという方も多いと思います。インターネットで「里親」と検索すると、犬猫の里親探しが出てきますが、ここで紹介するのは、人間の子どもを自分の家庭で受け入れて育てるという里親です。

世の中には、親がいても様々な理由で、一緒に暮らすことができない子ども達があります。その理由の一つに児童虐待があり、虐待を受けると、発達の遅れやコミュニケーションが上手くできなくなるなど、子どもの中に大きな傷を残します。その子は今、子どもかもしれませんが、いずれ大人になり、大人になれば、次はこの子

が親となります。家庭や親のモデルがないと、その子が親になった時、子育てに苦勞し孤立していく傾向がありますが、モデルがイメージができたり、誰かに相談できる関係があれば、大きな支えとなります。

ですから、児童養護施設等の施設で養育をする施設養護でも、できるだけ家庭に近い環境を目指しています。ただ、現在の職員配置では、子どもの数に対し、職員の配置数があまりにも少なく、職員がいくら頑張っても追いつかない状況があります。施設には、子どものことを真剣に考え、悩み、支える施設職員の方達や職員を慕って生活する子どもの姿があります。確かに施設の生活の中にはしんどさもありますが、施設で暮らす子どもが、単純にかわいそうと決めつけてしまうのは偏見だと感じています。

家庭で暮らすことができないのは、子どもの

責任ではありません。その子ども達を社会で護り、育てていく必要があります。その社会で育てていく場が、乳児院や児童養護施設等の施設養護と養育里親を始めとする家庭養護となります。

里親にも種類があり、養育里親の他、「養子縁組によって養親になることを希望する里親」「親族里親」「専門里親」があります。里親制度は、まだまだ知られていませんし、委託率も全国平均で12%程度です。実はこの数字にもバラつきがあり、低い地域では5%前後、高い地域では39%程です。里親も地域によって、大きな格差がありますが、厚生労働省は里親委託を推進する方針を打ち出しています。

その他、里親という話をする際に、施設養護VS里親という構図をよく耳にしますが、私は施設養護にも里親にもプラスマイナスがあり、どちらも子どもの成長や最善の利益を願う気持ちは同じなので、子どもにとって何が大切なのか共に考えていくことは可能だろうと思っています。

養育里親も施設と同じように子どもを社会で護り育てるという一端を担っています。ですから、気楽な気持ちで里子を受け入れられるものではありません。

何故、養育里親に？

養育里親を目指して活動していると、「何でまた、養育里親をしようと思ったのですか」とよく質問されるのですが、返答に困っています。別に私は、志の高い人間ではありませんし、立派な人間でもありません。確固たる想いがあるのかなのか、自分自身もよくわかっていませんので、養育里親を目指すまでを振り返ってみます。

まずは、我が家の紹介をします。我が家は、

高齢者施設職員の夫と卓球に燃える中学2年生の息子、甘えん坊の小学6年生の娘と母である私の4人家族にミニチュアダックスフント2匹、うさぎ2羽、金魚や亀がいます。庭を挟んで母屋があり、祖父母家族が5人住んでいます。

我が家が里親になるためには、児童相談所に連絡をし、説明を受けるところから始まります。申請に必要な書類を提出し、家庭訪問での調査を受け、基礎研修、認定前研修、実習を完了すると、児童相談所が調査結果をふまえた意見を都道府県に提出します。都道府県から児童福祉審議会に里親認定が可決されると登録になります。昨年の5月に児童相談所に連絡をし、今年の3月に養育里親登録が完了しましたので、約1年弱の期間がかかりました。里親登録は、片親の登録が認められるようになったのですが、私の地域では夫婦登録が原則となっています。

里親登録が完了したばかりで、まだ里子を受け入れた生活をしているわけではありません。今は、まず里子を受け入れるための準備をしている段階です。

里子を受け入れるための準備は、大きく分けると2つあります。まず、祖父母を含めた家族が、里子を受け入れるための気持ちの準備。そして、我が家の生活スタイルの調整です。夫は、高齢者施設の職員で、盆も正月もなく早出や夜勤もある勤務体制です。私の方は、短期大学の幼児教育学科で社会福祉系の科目を担当する教員で、朝7時には家を出る日が多く、土日仕事が入るといった状況でした。この夫婦の生活スタイルで、養育里親を受ける事は困難です。夫か私かのどちらかが、生活スタイルを変えなければ子どもを受け入れても養育できる環境とはいえません。養育里親に委託される子どもは、いろいろな背景を抱え、傷つきの体験を持っています。丁寧にその子と向き合う事が里親には求められます。

一方、この地域は里親委託率が下から数えた

方が早い程低く、里子の依頼が本当にくるのか
確証がありません。児童相談所からの依頼がす
ぐなのか、1年先になるのか見えない中で、いつ
から生活スタイルを調整すればいいのか悩みま
しましたが、私が短大を昨年度末で退職する事に決
めました。新年度からは、非常勤講師とスクー
ルソーシャルワーカーとして働いています。今
は、新しい生活スタイルの中で、どのように周
りと連携すれば里子の養育ができるのかの目処
をつけ、里子が安心して暮らせる環境作りをし
ていく時だと感じています。この生活スタイル
での厳しさは、やはり大幅な収入減になるとい
う部分です。

ただ、私はいつの日か里親を試してみたいと素
直に思っていましたし、するのだろうと感じて
いました。それは、自分の生い立ちが関係して
いるのかもしれませんが。私は父親と一緒に暮ら
した経験がなく、母一人子一人の母子家庭で育
ちました。その当時、母子家庭は珍しく、母か
らは「私達は猫の子を捨てるかのように父親に
捨てられたのよ。だから、大きくなったら仕返
ししましょうね」と言い聞かされて成長しまし
た。今となっては、そんなアホなと思いますし、
父親にも母親にもそれぞれ事情があったのでし
ょう。そして、その現実に対して子どもである
私が解決できる術があるわけでもなく、自分自
身に負い目を感じる必要はないと理解していま
す。自分の中で生い立ちの整理がつく事は、養
育里親になる上で必要です。

また、私が里親をしたいという思いに気づく
きっかけは、ご自身も里親をなさっている花園
大学の津崎哲郎先生との出会いでした。津崎先
生との世間話の中で「どう、里親やりませんか？」
と問われた時に「いつかは、やりたいと思っ
ています。今は、子どもが保育園に通っているか
ら、もっと子どもが大きくなったら」と答えて
いました。今も津崎先生からは、里親のアドバ
イスをいただいている、安心して頼れる先輩で

す。

そんな想いをいつも片隅に持ちながら、乳児
院や児童養護施設を支援していく活動の中で、
施設で暮らす子ども、保護者、施設の職員の方々
との出会いがありました。

施設で暮らす子どもの中には、父母が会いに
きても職員に抱きついて拒否する子もいます。
面会の約束をしても、ドタキャンする親もいま
す。親にドタキャンされると子どもは、さらに
傷つきます。ここで、その親を責めれば気が済
むかもしれませんが、実際に話を聞いていくと、
親自身も辛い子ども時代を過ごしていたり、親
である事に自信をなくしていたりします。子ど
もの方は、いつまでも親に認められたいと願ひ、
職員は、子どもを支えるために自分の時間を削
ってまで、試行錯誤しながら子どもと向き合っ
ています。それぞれの想いに出会うたび、私
の中で揺さぶられる感覚がありました。

さらに、家族をシステムと捉える家族療法に
出会い、学べた事も私に大きな影響を与えまし
た。システムを意識する視点は、今までの思考
パターンを覆さなければなりません。どん
んな変化が起きれば、物事が動いていくのかを
意識する思考になっていくと変化を恐れなくな
り、私の中の行動力が増していったようです。

もちろん、養育里親の難しさ、起こるであろ
う様々な問題も容易に想像ができます。私に任
せてなんて、とても言えません。養育里親をし
たいという気持ちと不安が膨らむ日々が続いま
した。遠い先の事を考えると、不安で埋め尽く
されていきます。そんな時に、里親支援をして
いる方から「まずは、里親登録してくださいよ」
とかけられた言葉が、いつまでも私の中で響き
ました。先を考えると腰が引けてしましますが、
里親登録を目標にするならできるかも。これが、
最初の第一歩です。私は、悲しいかな、間違い
なく小心者です。

家族と歩む

まず、里親登録を目指すために、家族会議を開きました。母は、里親登録をしたいと宣言し、里親とは、この家族に子どもが増えて、一緒に暮らしていく事で、その子は、嫌な事や困った事もしてしまうかもしれないけど、引き受けるからには、こちらの都合でもう預かれませんかと言いたくない。預かるからには、家族全員の覚悟がいる。子どもが来るのは、まだまだ先だけど、児童相談所に話を聞いてきてもいいかと問いかけました。しかし、いくら里親を言葉で説明しても、養育里親の本質について家族が感じたとは、とても思えませんでした。子どもが増えるって嬉しい、楽しそう、いつ来るの？という反応でした。本当の了解をもらえるのは、まだまだ先だと、気が遠くなりました。

養育里親は、親である私が一人で踏ん張ってもできるものではありません。家族の理解と協力はもちろんですが、家族を囲む周りの人々の理解と協力も不可欠です。

私の家族には、実子が2人います。実子を犠牲にしてまで養育里親をするのかと責められ、子どもの人生を親が台無しにする行為だと言われました。夫と里親登録を進めていく中で、子どもの気持ちを何よりも大事にしようと思っています。それは、実子だけでなく里子を含めてです。子ども同士が出会い、交流していく中で、3人ともに一緒に暮らしてもいいよと思える関係を作りながら里子を迎え入れたい。子ども達が知らない所で物事が動かないように、子ども自身も一緒に考えていくスタイルを忘れないように心がけようと自分に言い聞かせています。子どもを大切にすると、具体的にどう行動を起こせばいいのかを考え続けています。

具体的な行動の一つとして、里子という表現に抵抗を感じています。説明をする上で使っ

ていますが、できれば子どもと表現したい。里子と表現する行為は、血のつながりや戸籍のつながりが無い子どもが、家族として一緒に生活していく中で異物感を抱かせてしまうのではないかと。大人側の事情で、里子が辛くなっても意味がありません。何よりも、子ども達が笑顔で暮らせる環境を提供するために、何をすればいいのか、何を大事にすればいいのか考え、責務が私達大人にはあると思います。

この養育里親登録までの1年間でも、児童相談所に電話を入れるまでに私の中での葛藤が繰り返されていました。実際に里親登録を目指していく中で、家族が不安定になっていく場面にもぶつかりました。里親登録ですら、予想以上のしんどさがありました。

養育里親としては、始まったばかりのひよこ家族です。これから、どのような展開が待ち受けているのか、先は全く見えない状況ですが、一人でも多くの方に家庭で暮らしたくてもできない子どもがいる現実と里親を知っていただきたいと願っています。